

## 令和4年度第1回滋賀県職業能力開発計画審議会 概要

### 1 日時

令和4年8月18日（木）午後2時から午後4時まで

### 2 場所

北新館5-F 会議室

### 3 出席委員

佐藤、田邊、中平、山本、中野、和田孝、山田マリ子、  
和田光平、池内、大江、伊地知、山田  
中村、野口の各委員（敬称略、出席14名）

### 4 事務局

労働雇用政策課参事 他1名

### 5 オブザーバー

県立高等技術専門副校長

### 6 議事概要

- (1) しが職業能力開発推進プランの実施状況について  
資料1-1、1-2、2により説明
- (2) 高等技術専門校のあり方に関する意見について  
資料3-1、3-2、4により説明

## 【主な意見等】

### 議題1 しが職業能力開発推進プランの実施状況について

#### 委員（DXの推進）

滋賀経済産業協会の方でDX研究会というものを県の援助を受けてやっているが、中小企業がDXを推進するにあたって重要なことは業務分析や業務改善がしっかりできていないと色々な施策をのせていけない。逆にそれがない状態でDXを各企業で導入しようとするとも既存のシステムにのっていってしまう側面がある。ITスキルは当然必要だが、業務を分析する能力、改善する能力が必要であると思う。その点がないとただのシステムを紹介するだけのパソコンが少し詳しいだけの人材になってしまうことを危惧する。

#### 事務局（DXの推進）

おっしゃっておられる通りである。経済産業協会の中でもチームとしてDXをどうやって仕切っていくのかという人材を育てていく講座を開いていると聞いている。分析や解析も含めてやっていく形で高等技術専門校も含めて他の教育機関と行っていきたい。

#### 委員（数値目標）

目標値は最終年度には100%にするものだと考えているが、どういった考えか。

#### 事務局（数値目標）

100%を目指すべきものであるとは考えているが、現実を見るとなかなか難しいと考えている。県の目標の中でも100%の目標になっているものは少ない。

#### 委員（数値目標）

目標というのは現実との兼ね合いの中でたてられるべきものであるし、目標というのはそれに向かって関係者が頑張るという意味を持つものであるから、100%を達成するという気持ちで頑張るのが前提だと私は考えている。

#### 事務局（数値目標）

100%を目指して頑張っていく。

#### 委員（就職率）

実績に関して就職率 100%と書いてあるが、実数はどうなっているか。

#### 事務局（就職率）

例えば普通課程 100%の場合は県が行っているメカトロニクス科と自動車整備科の2つがある。メカトロニクス科の令和3年度の修了生は4人で、4人が就職しているため 100%である。自動車整備科については修了生が6人で6人が就職しているため 100%となっている。30人定員で15人が入校して修了が10人、就職が10人で 100%となっている。入校状況から鑑みるとはたして就職率 100%で県の産業を支える人材を育成できているのかという素朴な疑問につながるかと思う。

#### 委員（DXの推進）

DXの推進に関しては、どこから手をつけたら良いのかわからないとか先端の機械を入れるとか随時設備の更新等はしているが、機械のパフォーマンスを活かすような人材の育成を自社で行うことは難しい。手元にいる人材のスキルアップをする機会があればありがたいが、広く雇用をさらに増やしていくとかDX化の推進という意味では、企業側の雇用能力をさらに高める必要がある。企業経営者に対する具体的なアドバイザー的な制度があって相談にのってもらえれば、DX化等が進むのではないかと考える。具体的にそういった方策があればお聞きしたい。

#### 事務局（DXの推進）

現在手元に資料がないが、国および県が委託するような形で事業を行っている。

#### 委員（高等専門学校）

高等専門学校の新設は他府県で最近あったのか。

#### 事務局（高等専門学校）

近年では高等専門学校が新設はされていない。

#### 委員（高等専門学校）

50年ぐらい前は中学からの進学の際に高等専門学校に進学する生徒は非常に優秀な生徒が多かった。あえて滋賀県で新たなコンセプトで高等専門学校を作る意欲はわかるが、現実とどのようにマッチしていくのが疑問である。また学校教育になると思うが、知事部局か教育委員会のどちらの管轄となるのか。

#### 事務局（高等専門学校）

最終的にどちらになるかはわからないが、知事部局になると思われる。県立で運営は県営でやるのか県立大学でするのかの二択になるかと思われる。

#### 委員（高等専門学校）

学校教育と職業教育は日本の場合はほとんど別である。これが今の若者にとっての最大の職業の問題であると感じている。滋賀県があえて新たなコンセプトで高等専門学校を作られるのであれば、学校教育と職業教育をわけてしまうのではなく、うまく組み合わせる新しい仕組みを検討の中の課題としていれてほしい。

#### 委員（高等専門学校）

例えば、アメリカではジャーナリストの学部や映画の学部ではそのまま仕事ができるようなカリキュラムとなっている。滋賀県でもそのような形でできれば素晴らしいと思っている。

#### 事務局（高等専門学校）

高等専門学校がそのような役割が担えるかということも含めて今後検討していきたい。学校で学んだことだけでは、社会で通用しないということもあるので企業の皆様の協力を得ながら高等専門学校を地域に開かれた学校にしていこうという考えもあるので、委員がおっしゃられたように職業学校、学んだことが就労に結びつくような内容にしてもらえるように意見をしていきたい。

#### 委員（高等専門学校）

これまでの職業訓練校の経験を活かせるような形で進めてほしい。新しい時代のニーズや若者を育てていくという県での期待に応えられるようなものになるように側面支援として審議会での意見も伝えるようにしてほしい。

#### 委員（高等専門学校）

香川県では2校あった高等専門学校が1校に統合されている。どういったところが求められているのか。これまでの経験を積極的に活かして作ってほしい。

#### 事務局（高等専門学校）

先ほどいただいた意見を伝えまして、「滋賀県らしい良いものを作ったね」と言ってもらえるように側面から支援していきたい。

## 議題2 高等技術専門校のあり方に関する意見について

### 委員（県のスタンス）

ものづくりに関わる人口が年々減少していつている。ポリテクセンターが先導するだけでは足りないと感じている。大学生も経営や経済に行く人が多い。滋賀県がものづくり県だということであれば、県をあげて意思を宣伝していかないといけない。そうでないともものづくりに関わる人がますます減っていく。これからの滋賀県のものづくりをどうしていくのかという方向性を考えた方が良いのではないか。現状、学生が全然とれていない。ものづくりを目指す学生が増えるようなPRを県をあげてやってほしいと思っている。

### 委員（県のスタンス）

先進国における出世欲に関して、日本は出世欲が世界で最下位に近いということをラジオで聞いた。出世をしても賃金が変わらない、責任は問われる等高度成長期とは違う。そんな中ものづくりで技術をあげて自信をもってもら。社会人としての基礎能力の育成し、「学力だけにとらわれず、技術的なことも意欲的な方向性で活かしていける県は滋賀だ」という打ち出しをしても良いのではないか。出世意欲の低下を逆手にとり、学力だけではなく技術を推していくのはどうか。

### 委員（機構との重複）

お金が生じている事業であるので、入校者が多い方に集約したらよいのではないか。定員は国の事業の方が少ないのか。

### 事務局（機構との重複）

定員はポリテクセンターの方が多い。滋賀県は草津・米原を合わせて245人の定員であり、ポリテクセンターだけで330人程度の定員となっている。

### 委員（機構との重複）

機構は雇用保険が財源であり、県は県税が財源になっていて財源的には異なっており、カリキュラムでも互いに意識しながら差異をつけているという理解で良いか。

### 事務局（機構との重複）

すみ分けをしているという形で整理をしてきた。一般県民からすると違いがよくわからないという意見もある。

#### 委員（失業保険）

ポリテクセンターは失業保険をもらいながら訓練を受けていると思うが、高等技術専門校の場合はどうか。

#### 事務局（失業保険）

県も雇用保険を受給してもらいながら訓練を実施している。

#### 委員（入校者の男女比）

入校生の男女比率はどうなっているか。

#### 事務局（入校者の男女比）

服飾の訓練科についてはほぼ女性。米原校舎の住宅リフォーム科は半分以上が女性である。それ以外はほぼ男性の入校者である。機械や溶接分野でたまに女性が入ってくることはあるが数年に1人や2人ぐらいである。ポリテクセンターは機械や溶接は県と似たような状況ではあるが、女性専用のCADものづくりサポート科がある。全体的な割合からいうと女性の方が少ない。男女比はおおよそ8：2の比率である。

#### 委員（訓練科）

なぜ最近のDXやIT系の訓練は行わないのか。

#### 事務局（訓練科）

県では草津校舎の方でICT技術科を令和2年に作っている。入校率はほぼ100%である。ただし内容が難しく中退する人が多い。また米原校舎で生産CAD科を令和元年に作っている。ポリテクセンターで一番新しいのはCADものづくりサポート科になるが、5～6年はたっている。

#### 委員（就職率）

就職率についての記載があるが、学んだことを活かせる就職先につけているのか。

#### 事務局（就職率）

おおむね学んだことを活かしているが、就職率の中には中途就職者も含まれているので、中途就職の場合はその限りでない。就職率は国の基準をもとに算定している。

#### 委員（就職率）

勤めてから離職されている方もいる。知識や技能が陳腐化しないうちに新しい内容をどんどん取り入れていく必要がある。またそのPRも必要である。就職支援は行ってい

るか。

#### 事務局（就職率）

自力で見つけてくる人もいるが、基本的には就職支援を必ず行っており、企業へとつないでいる。

#### 委員（離職者訓練）

中小企業では、紹介予定派遣を使って採用しているのが普通になってきている。高等技術専門校でやっていることは、民間の紹介予定派遣とやっていることは一緒である。差別化が必要である。良いところはマネしていく等柔軟な対応が必要ではないか。

#### 委員（離職者訓練）

あえて税金を使ってやっている意味を積極的に県民に打ち出さないといけない。長期的に考えれば非常に大切なことをやっている。

#### 事務局（離職者訓練）

取り入れられるところは学び、民間に任せられるところは任せていきたい。

#### 委員（離職者訓練）

民間にはできないことをやってほしい。

#### 委員（普通課程）

高校卒業の生徒で高等技術専門校に行きたい人がどれだけいるのか。ほとんど大学に進学していく生徒が多いのではないか。専門学校に行く生徒もたくさんいる。滋賀県は特に京都や大阪等の学校に通いやすい。例えば自動車整備学校についても日産やトヨタが経営しているものがあり、そこに行ってしまう。30年前や40年前と比べて学校もたくさんできており、状況も変わっている。高等技術専門校について知らない人が多いように思われる。高校の先生もどれだけ知っているのかが根本的な問題だと思う。

#### 委員（普通課程）

失業者の形が様々であり、学校教育からは離れてしまって従来なら仕事についているが、若者でもその狭間に落ち込んでしまっている人が珍しくはなくなってしまった。そういう方達にも利用してもらえる高等技術専門校のことを知らないのが課題である。

#### 事務局（普通課程）

PR 不足を感じており、まだまだ知られていない。高等学校卒業者については、まず学

校の先生に理解してもらう必要がある。求職者に関しては、ハローワークが窓口になるため、ハローワークの職員に積極的に訓練のことをPRしているところ。訓練を受けた先のどんな仕事に就けるのかというイメージをしてもらえていないのが課題であると考えている。業界と訓練がつながっていくようなPRを考えていかないといけない。

#### 委員（専門校のPR）

県をあげて宣伝しないといけない。ポリテクセンターだけでは無理だと考えている。専門校は受け皿的な存在であり、どうしても就職できないというような方を何とかしていくという部分もあり立派な仕事であると思うので、しっかりできるようにしてほしい。

#### 委員（専門校のPR）

「モノづくり」と強調する「モノ」とは何なのかという部分を滋賀県がアピールしないといけない。従来型の機械やそういうイメージを大方の人は持っていると思うので、DXなども深く結びついてあることをアピールしていくべきだ考える。

#### 委員（専門校のPR）

滋賀県がモノづくりの県だということであれば、「モノづくりは人づくり」という考え方を大事にしてほしい。もっとPRしてほしいし、知事にも伝えてほしい。

#### 委員（訓練科の名称）

コロナ禍の中、雇用調整助成金でなんとか雇用は維持されているが、人材をどう育てていくかが大事だと考えている。名称を見て具体的な訓練内容がわかりにくいと感じているので、例えば、ものづくり加工科と言われても実際に何を目指していくのかが見えてこない。誰が見ても何をするのかわかるような見える化を図り周知することが重要ではないか。在職者の方でも自分のスキルを上げていく。中小企業も中々人を育てる時間がないので、中小企業とタイアップして人を育てるところに力点を置くようにしてほしい。

#### 委員（出口イメージ）

短期大学では学生を募集する時に将来のイメージを伝えるようにしている。入校生となる方に就職先等の将来のイメージ（出口イメージ）を示していくことが大事ではないか。

#### 事務局（出口イメージ）

学んだことがどう活かされているのかということがイメージできないといけないと思う。



委員（出口イメージ）

一番良いのは当事者に語ってもらうことだと思う。これから受けていただく方にいかに届けるかが重要。

委員（出口イメージ）

動画配信等をしていくのはどうか。

事務局（出口イメージ）

委員の皆様からいただいた意見を参考にして今後検討していきたい。

委員（出口イメージ）

企業とタイアップをして専門校を出れば〇〇に就職できるというような道筋をつけることが重要だと考える。先が見えることにしか手を出さない子も多いので前を示すのが大事だと考える。